

はじめに

平成 25 年 12 月、「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録された。これを契機に現在開催されているミラノ万博、2020 年開催予定のオリンピック・パラリンピック東京大会成功への気運が高まっている。

周知のとおり世界中で日本食ブームが巻き起こり、日本食は外国人が好きな外国料理の 1 位(66.3%)を占め(日本貿易振興機構調査 2014 年)、海外に出店する日本食レストランはここ 5~6 年で 2 倍以上(五万店以上)に増加している。

しかし、国内では「和食文化の継承に関して心配なこと」のアンケートで、「正しく箸を持てない子どもが増えた」、「和食マナーの大切さが若い世代に伝わっていない」などの回答者が 9 割以上であった(農水省和食会議会員へのアンケートより)。このように、若者の和食離れを心配する声が高まっている現状がある。

また、学校現場では、いじめに起因する様々な事件が後を絶たないことなどがあり、道徳の授業の教科化や道徳教育の全面的な見直しが叫ばれている。

これらの背景から、本校ではこれまで積み重ねてきた食育・健康教育の実践をさらに深化させ、「食育と道徳を連携し、日本や他国の伝統を学ぶ体験的な活動を通じて生きる力を育み、人間力を高める取り組み」を推進してきた。

研究の概要

昨年度、「日本や大阪の伝統を尊重し、児童の健全な心身を育む健康教育・食育のあり方を探る」のテーマで研究を進め、「食育チャレンジ」、「学校保健委員会」、「天満菜を使った和食教室」、参観授業「大阪の食文化を知るベジタこ教室」など様々な取り組みを推進し、大阪の良さや日本の伝統について等学習し、食育と健康教育の向上に取り組んできた。

しかし、平成 26 年度の全国学力・学習状況調査の結果から、朝食摂取が全国平均を下回

っている現状があった。昨年度より強化して取り組んでいる「はしのマナー」や「朝食摂取」については、保護者の協力が不可欠であることから今年度はより多くの家庭の協力を得ることができるよう、啓発を行っている。

また、昨年度より道徳教育を推進していることから、食育と道徳の連携をはかり、「我が国や他国の文化を尊重する」、「郷土の良さを知り、郷土愛を育む」、「決まりのある生活を実践し、進んで朝食をとる子どもを育てる」、「自然や食物に感謝し、マナーを守って食事することができる子どもを育てる」等、食育の目標と道徳の内容項目に見合った事項を中心に児童の生きる力を高めていけるような実践を進めていけるよう計画した。

まず食育・道徳の基礎固めをし、その上で日本の伝統や大阪の良さを見つけ、郷土愛・愛国心を高めていくことでより良い生き方を実践できる児童を育てていく。

毎日の給食活動や道徳・「総合的な学習の時間」・生活科・学級活動や委員会活動などあらゆる場面を通じて少しずつ自己や集団のあり方を考え、実践できる力をつけさせる工夫を重ねていく。

これらの成果を上げるために、めあてを以下の6つに絞り、実践を進めた。

- 日本の伝統や外国の文化を理解する体験活動を通じて、道徳と食育の連携をはかる。
- ユネスコの世界遺産に登録された「和食」の基本を伝える。(箸づかいやだしのとり方など)
- 郷土の良さを知らせ、郷土愛を育むために、なにわの伝統野菜を育てたり食べたりする体験活動を行う。
- 様々な分野の専門家を講師として招へいし、児童に本物の良さを伝える。(キャリア教育の推進)
- 感謝の気持ちを持ち、マナー良く食事ができる人を育てる。(食育・道徳)
- 決まりのある生活をし、朝食をしっかりとのこと

のできる人を育てる。(食育・道徳・保健)

活動内容

1. 日本の伝統や外国の文化を理解する体験活動を通じて、道徳と食育の連携をはかる。

プロに教わる食育教室 5 年生の家庭科、「ごはんとみそ汁を作ろう」の単元で、だしの専門家を招へいし、大阪のだし文化の話を聞く。この授業を保護者の参観日にあて、家庭との連携をはかる。

また、「総合的な学習の時間」に地域のネパール料理店の人々に来てもらい、ネパールの生活・文化の話を聞き、ネパールカレー作りを指導していただいて調理実習もした。児童は事前に調べ学習をして、自分の視点から個々に「ネパール新聞」をまとめ、掲示発表したことで、講師への質問など深まりが見られ、児童が興味関心を持って取り組む充実した活動となった。



2. ユネスコの世界遺産に登録された「和食」の基本を伝える。(箸づかいやだしのとり方など)

5 年生の家庭科でだしの専門家を招へいした授業のほかに、6 年生で食育指導「おせち料理を考えよう」を行った。

秋から育てた天満菜(おおさかしろな)を使って、地域の料理人を招へいし、巻きずしとお吸い物の調理実習を行った。プロの包丁さばきやだしのとり方、和食の素晴らしさを

伝えていただき、児童は「6 年間でいちばん心に残りました」などと感想を述べ、全員が講師にお礼の手紙を書いた。

箸づかいの取り組みでは、1 年生から 3 年生まで、食育の授業ではしの持ち方を学び、さらに学校全体で「食育チャレンジ」の取り組みを行った。全学年休み時間に図書室に集まり、箸で大豆をつまむ数を競った。級が上がるごとにシールを貼ってもらえるよう給食委員会が中心になってお世話をし、楽しい実践になった。「食育チャレンジカード」には、保護者のひとことも書いてもらい、家庭との連携をはかった。「箸づかいは大切だが、ふだん忙しさに紛れて指導がおろそかになっていた。子どもが頑張っている様子を見て、家族で意識するようにしていきたい」などの声があった。

食育アンケートの結果では、80%以上の児童が箸づかいを意識して食べることができるようになってきている。(平成 26 年度 85%)



3. 郷土の良さを知らせ、郷土愛を育むために、なにわの伝統野菜を育てたり食べたりする体験活動を行う。

「総合的な学習の時間」や理科、社会科、委員会活動等でなにわの伝統野菜の栽培体験活動を 8 年前から継続して行っている。

なにわの伝統野菜とは、「おおむね 100 年前から大阪府内で栽培されてきた野菜」などいくつかの基準をクリアしたもので、現在 17 品目が認証されている。天王寺かぶらや毛馬きゅうり、勝間なんきんなど、大阪市内がルーツの野菜も多くあり、田辺だいこんや金

時ににんじん、おおさかしろな(天満菜)などは、学校給食でも使用されている。

収穫量が少なく栽培は難しいが、地域の専門家の指導を受けて取り組んだ。

地域学習にピッタリの題材であるので、3年生の社会科でも取り上げられていることから、はじめて「総合的な学習の時間」がはじまる3年生が、めいめいに伝統野菜を観察し、育てて壁新聞にまとめた。さらに収穫した吹田くわいや勝間なんきんをたこ焼きの中に入れる「ベジたこ」作りに挑戦した。たこ焼き専門店の講師の指導で、大きな鉄板を家庭科室に持ち込んでもらい、児童全員でたこ焼きをひっくり返す光景は、楽しさでいっぱいであった。自分たちで育てた野菜が入ったたこ焼きは、オリーブオイルと塩で食べる野菜の味わいを大切にしたい食べ方を指導していただき、どの児童も目を輝かせて取り組んだ。



児童が作成した壁新聞は、参観日や北区の食育展や中学校での食育展でも紹介し、保護者、地域、中学校と連携した。

栽培委員会の児童は、水やりや野草の駆除など、高学年として学習みのり園の環境整備をたいへん意欲的に行っている。育てた野菜をカレーやスパゲッティミートソースにして食べる実習もし、卒業文集には、楽しかった栽培委員会の活動を書き、「一生心に残る活動だった」と綴った児童もいた。

4. 様々な分野の専門家を講師として招へいし、児童に本物の良さを伝える。(キャリア教育の推進)

伝統野菜の活動では、多くの地域の専門家の指導を受けて取り組んだ。天満菜などめずらしい種をいただいたり、害虫から野菜を守る方法を教えていただいたり、地域の土地の特徴を教わったり、校区内に農家が全くない本校の児童は、専門家から多くを学び、実践した。

地域の料理人やだしの専門家、小笠原礼法の先生など、地域で活躍する様々な職種の方から生の声を聴き、職業に対する熱い思いを感じとる児童が多かった。

ゲストティーチャーとの触れ合いを受けて、5年生で道徳と食育の連携授業「太陽の味」を行った。児童は「農家の仕事をしたい」「食に関する仕事に将来ついてみたい」などの感想をワークシートに書いた。

大人たちが頑張っている姿を、子どもたちに実感させることで、個人差はあるものの、自分の将来の夢や生き方を考えさせるとても良い機会となったと実感している。

5. 感謝の気持ちを持ち、マナー良く食事ができる人を育てる。(食育・道徳)

食事マナーを高める実践は、9年前から「運営に関する計画」に掲げて行ってきた。

マナーふり返りカードのアンケートでは、姿勢とはしの持ち方に課題があった。そこで、これらを改善するために養護教諭や担任と連携して様々な取り組みを進めてきた。

はしの持ち方は、学級指導をきちんと行い、さらに食育週間の取り組み「食育チャレンジ」で豆つまみゲームをを通じて楽しくレベルアップできるように工夫した。

姿勢の取り組みでは、養護教諭が中心になり、「姿勢週間」を設定したり、朝の集会時に「背骨すっきり体操」を行ったり、授業のはじめに10秒背伸びをしたり、様々な取り組み

を行った。



さらに、家庭との連携をはかるために、学校保健委員会で「姿勢力の向上」をうたって小笠原礼法の師範の先生に指導していただいたり、体幹トレーニングの先生を東京からお招きしたりして実践を重ねた結果、児童の意識が少しずつ向上してきている。

これらの専門家の先生には、教室や体育館で児童への授業もしていただいた。

「マナーは、社会生活において、他人に不快な思いをさせない、人を思いやる心を態度で伝える人間として大事な行いである。」と小笠原礼法の師範の先生に教わり、私たち教師も日本の伝統を再確認することができ、良い経験になった。



6. 決まりのある生活をし、朝食をしっかりとることのできる人を育てる。(食育・道徳・保健)

3年生の体育科の保健学習「毎日の生活と健康」で規則正しい生活の大切さを学ぶ。

1週間、自分の朝の生活を振り返って就寝時刻、起床時刻、排便や朝食をカードに書き出し、規則正しい睡眠や食事の大切さを伝える授業を担当と栄養教諭のT・Tで行った。

さらに、食育チャレンジでは、朝食の標語を作り、児童全員で覚えた。ひとつ覚えるたびにシールをはってもらい、ゲーム感覚でレベルアップしながら朝食の大切さを確認できるように工夫した。

保護者からの意見の中には、「子どもが、(今日はあか、き、みどりの3つの食べ物が入ったバランスのいい朝ごはんだね)と毎日話してくれて、親の方が教えられています」などの声が聞かれた。

成果と課題

和食の専門家や地域の料理店のプロを招いてT・Tによる授業実践を行うことで、自分自身、効果的な授業のマネジメント力が高まったと感じている。

また、なにわの伝統野菜を栽培したり食べたりする活動など、五感を刺激する体験的な授業は、児童の印象に強く残り、郷土の素晴らしさを体感させ、生きる力の育成につながった。

27年度全国学力学習状況調査の結果から、本校の児童は国語AB、算数AB、理科のすべて大阪市、全国の平均を上回る結果であった。

「総合的な学習の時間」に関する設問では、「自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の項目で、「あてはまる」との回答が大阪市、全国の平均値よりも高い結果であったことから、本校の「総合的な学習の時間」が児童にとって充実したものであることがわかる。

ここ数年、食育や道徳を研究教科として取り組み、子どもの学力の基礎(土台)の形成を行ってきたことと、教科を横断した体験活動を多く取り入れてきたことが成果につながったと考えられる。

さらに、課題であった朝食の摂取率につ

いて、27年度の全国学力学習状況調査の結果から、はじめて大阪市、全国の結果を上回り、89.1%（している、どちらかといえはしているの合計）であった。

これらの実践を地域や保護者、近隣諸学校へ発信してきた。学校ホームページに「食育タイムリー」を立ち上げ、日々の給食や食育の活動を毎日発信している。

また、「食育アンケート」の実施は区内小学校すべてに行い、さらに中学校や幼稚園の養護教諭と連携して幼・小・中全体へ広げた。この取り組みを学校保健協議会で養護教諭と栄養教諭と一緒に報告し、区内全体へ発信した。

さらに、校内では日曜参観のときに保護者対象に行われる「教育講演会」で、本校の食育の取り組みや中学校への連携、食の重要性について「人生を豊かにする食育のすすめ」と題して講演し、多くの保護者へ発信した。

今後も本物の良さを学び、体験する授業を通じて、道徳と食育の目標により迫ることができる教育実践を行い、体験したことを自分自身の生活に生かすことができるような意識づけを学校生活全般を通じて継続し、成果を上げていく。

これらの取り組み全体を通じて、児童が目標を持って学校生活・家庭生活を向上させようとすることで、人間力・生きる力の育成につなげていきたい。

おわりに

本校は平成23年度、文部科学省「栄養教諭を中核とした食育推進モデル事業」実践中心校として委託を受け、食育の研究を行い大阪府で発表した実績を持ち、なにわの伝統野菜についての取り組みは、8年にわたり継続してきた。田辺だいこんや天王寺かぶら、勝間なんきんなどのほかに、玉造黒門しろうりや吹田くわい、毛馬きゅうり、鳥飼

なすなど栽培品種も多様である。これらの栽培活動は、理科の植物を観察する学習や給食時の残さずに感謝して食べる指導にも効果を上げ、本校の残食率はパンや牛乳に至るまで毎日0%の日が続いている。

また、姿勢やはしのマナーに関する指導では、保護者・地域を巻き込んで学校保健委員会などの機会を通じて啓発を行い、成果を上げている。

これまで多くの児童が給食委員会や学級活動の時間に、献立コンクールに挑戦し、これまで最優秀賞や優秀賞、特別賞など多くの賞を獲得してきた。

昨年度は、農林水産省が主催する「日本全国こども郷土料理サミット」にて、本校児童が近畿地方代表と2位のダブル受賞を果たし、代表児童は、東京の国連大学で多くの観客やメディアを前にしてで発表する機会を持ち、本校の取り組みを全国へ発信した。



道徳の研究は、文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」研究指定校、並びに「大阪市道徳教育推進委員会研究指定校」を受け、学校全体で取り組んでいる。これを受けて、道徳と食育の連携をはかる実践を、26年度から2年間にわたり「がんばる先生支援」事業の承認を受け行ってきた。

今後は、これらの取り組みを継続・発展させ、全市へ公開し、大阪市の道徳・健康教育・食育の推進に貢献していきたいと強く感じている。